



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2016年4月1日

4月号・第171号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



シイタケの菌打ち

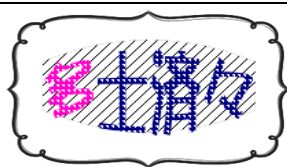
Contents

ホームページでは、カラーで見ることが出来ます



URL <http://www.naranature.com>

多土済々	1	癒しの散歩道 & ならやま茶論	11
Monthly Repo.ならやま	2	ギャラリーならやま	12
里山の今	3・4・5	字遊字感	13
2月・月例研修会(探鳥会)・報告	6	ならやまプロジェクト	14
2月・GGプロジェクト・報告	7	行事案内part1	15
やさしい病害虫講座	8	行事案内part2	16
青垣春秋	9	行事予告・奈良学クイズ	16
俳句百景	10	幹事会報告・編集後記	17



谷川 雅邦 さん

顧問 阿部 和生

多忙を楽しむ達人

音楽を愛し、言葉を紡ぎ、お酒も愛でる。地域自治会やシルバー人材センターの地域リーダー、そして理事として奈良市全体のお世話役などと、ご活躍の毎日です。第3の人生は“人様が喜んでくださることを心がけ実行する、それを生き甲斐”としておられます。写真も詩吟も好きと趣味も豊富、最近ではオカリナにはまっているとか？オカリナの名手松本さんとのデュエット演奏も近々期待できそうです。クラシック、合唱、詩吟とジャンルの違いも苦にならない器用さをお持ちです。

主催されている料理教室は、既に50回の開催を重ねられ、そば道場も好評継続中だとか。12月の春日若宮御祭りメンバーにも「会」の仲間と共に参加「毛槍」を振るっておられます。数え上げるのに切りがないほどのご活躍です。勿論「奈良・人と自然の会」会報誌「癒しの散歩道」への執筆も忘れません。超多忙人間で、人生を悠々と楽しんでおられます。

「奈良・人と自然の会」への入会の切っ掛けは、富雄シルバー人材センターの皆さんとの春の慰安会案の下見で、月ヶ瀬梅林へ出かけられた時でした。

私達も乗り合わせたバスでの会話から、話が弾み加入されたのでした。

いつもニコニコ、この世の中に嫌なことは何もないよ、楽しい事ばかり「トンネルの向こうは常に明るい光があるよ！」と前向きです。アクティブな日常生活、寸暇を惜しむスケジュールが、びっしりと記されている予定表は圧巻です。

シルバー人材センターでのご活動は、登録されている参加者の方々への連絡や作業やお仕事の按分だけでなく、多くの皆さん方のつながりや楽しみに重点をおいていると話されます。それは「奈良・人と自然の会」の、「明るく！楽しく！元気に！」のキャッチフレーズの精神ですし、「会員



相互の親睦を深める」という会則に謳われた理念そのものの実践です。

忙しくしておられる日常生活

に割り込んで、「会の歌」制作をお願いしたのは、平成24年だったでしょうか？何編かの作詞を考え、音楽を愛する寺田孝さんとも打ち合わせ、さらにご自身の思いを込めて推敲されて歌詞を仕上げた、お聞きしています。お友達「市村さん」のご協力を得て、メロディーが誕生し、更に曲の部分修正も加えられたそうです。以下がその歌詞です。

♪♪ ならやまの歌 ♪♪

1、思えば、ゆかしき ならやまに

青葉ゆれて風かおる ららら

恵みにあふれる豊かな森には

仲間が集まる 明日の夢が広がる

われらの憧れ かのふる里は

晴れて楽しい ならやまの里

2、夢見た 愛しきふる里に

季節が巡りて花が咲く ららら

小鳥はさえずる 緑の森には

耕す田畑も 喜びにあふれ

われらの思いは かのふる里に

歌声ひびくよ ならやまの里

ボランティア団体で、独自の「会歌」を持っているなんて、珍しいかもしれません。会旗と共に誇れる宝物の一つです。

しばらく歌っていません。また歌唱指導をお願いし、15周年を迎えるこの28年に花を添えたいですね。ご健闘を祈ります。

Monthly Repo. ならやま

八木 順一

2月25日(木) 活動 晴れ 56名

GGが目前だ。また、サイトの重機作業の後片付けも大変。そして、旅費支給等の事務作業も始まり、年度末も近い。各GともGGに向けての最後の詰めや、全体の環境整備に力を注ぐ。里山Gの薪の整理やエコGの野菜のネット張りの他、景観Gはビオ班の池の周りの植樹と花班のテントサイトのごみの処理、そして第5地区の防草シート張りに励む。又パト班は観察路の確認とコース巡回に回った。打ち合わせでは、サイトのごみの処理や事務処理について協力・依頼を行う。

2月27日(土) イベント晴れ 41名+71名+3名

今年最初のイベント。活動日和になり、参加者も一日、野外活動を堪能。午前中は、シイタケの菌打ちと植樹、午後はバウムクーヘン焼きと薪割り・コースター作りに取り組む。しかし参加者数やスタッフの慣れ等のせいかスケジュールの消化も順調で、イベントを楽しむ雰囲気はサイトに流れる。本来の目的が見えてきたようだ。しかし、イベントを支えるスタッフの努力にも頭が下がる。感謝。



3月3日(木) 活動 晴れ 62名

朝はシイタケの菌打ち、ごみの後片付け作業等の一斉協働作業が組まれ、予定通り終了。サイトも美しくなり、整備作業がこれで進む。また、シイタケの2年後の収穫も楽しみだ。午後、里山Gはどんぐり育成用の畑の畝作り、エコGは夏野菜

の種まきに時間を費やす。また景観Gでは梅の受粉作業やビオ班のドジョウ池の整備、そして花班ではごみ処理に時間を当てる。その他パト班はミーティングの他に、第1コース巡回に出る。打ち合わせでは、山一斉協働作業の段取りや旅費等の支給のほか新入歓迎会での変更事項が強調される。



3月10日(木) 活動 曇り 60名

春色も顔を出し始め、いよいよ心楽しい季節だ。各Gともその準備に大忙し。里山Gは倒木の処理や薪玉の整理、エコGはジャガイモの植え付け等に。また、景観Gは彩の道沿いの竹林の整理の他、ビオ班の水質調査、花班のラップスイセン等の植え込み、そしてパト班の第2コース巡回と大忙し。打ち合わせでは行事の予告のほか、GG参加の佐保台小からの礼状が紹介される。また、新入会員とシニア実習生の紹介が行われた。実習生は本日から当会に入会。その他久しぶりに近大からの来訪があった。

3月17日(木) 活動 晴れ 60名

20度を超す暑い一日だったが、作業も順調に進む。里山Gはトイレ等の囲いの設置、エコGはハウスの増設、そして景観Gは竹の処理と湿地整備、花の植え替え、パトロールと目いっぱい活動が続いた。



打ち合わせでは研修予定の連絡や年度内の会計処理のお願いが主なものだった。

里山グループだより

菊川年明

◆隔世の感

私の山班での活動は伐倒木のロープ引き、伐倒木の小枝の処理、薪割りなど周辺の作業に終始しています。それも最近では、もう一方で所属しているパトロール班の方で、観察路の補修や改善の作業が手薄になっていますので、そちらの方に傾き、山班に顔を出すことは少なくなっています。

私はこの3月で本会に入会してまる8年になります。本会がならやま地区へ進出して来た翌年のことです。当時、ならやまでは、歩ける道は自転車道だけで、ほかは全体にメタケや大型の雑草などが繁茂していて、山中へ足を踏み入れることは不可能な状態でした。

本会入会前のことですが、昆虫写真を撮るためにならやまへも、時々は来ていました。ならやまをめぐるときは、黒髪山キャンプフィールドのある南側から自転車道を経て、現在ベースキャンプになっている辺りに至っていました。

その頃、ならやまの山中を南北に横断してみたといよく思い、今は佐保自然の森になっている南側から挑戦してみました。現在は観察路の一部になっている禿げ山(赤土の露出地)までは辿れるのですが、その先はコシダが密生していて、行く手を遮っていました。

その後、北側(現在のベースキャンプ付近)の山際に人の踏み跡らしきものが見つかり、恐る恐る辿ってみたところ、迷いながらも何とか先の禿げ山に行き着くことができ、念願の横断が叶いました。しかし、山中は暗くて不気味、松などの枯木が林立し、朽木がそこかしこに転がり、踏み跡も直ぐに消え失せて、大変不安な探検でした。

本会入会後、大方は山作業のお手伝いをしていましたが、初期の頃は松などの枯木の伐倒が中心でした。現在は山中が美しく手入れされて明るくなり、きちんとした道が縦横に通じ、重点的整備区域内に危ない枯木などは見られません。当時を思い起こせばまことに隔世の感があります。



エコファームだより

小山喜与男

自ら食物を培って、それを食す。
そんなことが実現するとは夢にも想

っていないかった。「不耕食」に甘んじてきた小生にとって、「直耕」(自ら耕作)の機会を「佐保の里」に得たのは将に僥倖というしかない。

伝え聞くところでは、「奈良・人と自然の会」を樹ち上げた先覚が人手の入らぬ荒蕪の地に開墾の狼煙をあげ、土深く根を張る叢林を耕し、獣糞や堆肥をふんだんに鋤き込み、今に見る^{ほうじょう}豊饒の地に変貌させたと謂う。そして多種の農作物の播種から手懸け、作物の生育を見護り、旬^{しゅん}に至れば一飯の菜として余慶に与かる。その菜たるやY Rくらま、宿籬、甚五右衛門、山東、紅苳^{こうしん}等等、肥料にはEM、ぼかし、畑楽^{はたらく}と生来、初めて耳にする名称が飛び交う。

言うまでもなく、野菜造りには肥沃な土壌が欠かせない。路傍にいつの間にか堆肥が積まれ、兜虫の幼虫が丸丸と肥る様は興味深い。絶えず土を觀て、先手を打つ達人の存在を忘れてはならない。また、先人の一人は田ん圃の一面に吹田慈姑^{くわい}を持ち込んだと聞く。小粒の吹田慈姑は日本古来のものとされる。春に泥中から顔をみせる三角鍬のような葉っぱに一入故人の想いを偲ぶのである。

黒米の栽培も一大イベントである。餅米の原種でもあり、栄養価も高く、近時、黒米を混ぜた食品が増えている。食パン、米飯に些少の黒米を遣うのは誰でも知っている。小学生が泥に足をとられながら健気に田植に勤しむ姿は「佐保の里」の風物詩。彼等の人生に一齣の嬉しい思い出として刻まれるだろう。

岩波書店創業者が戦時中、軍や官の圧迫を受けていた頃、もし店を閉じることになったら富士の麓で百姓をやろうと言ったそうだが、そんな柔^{やわ}な考えは通らない。自然相手の作業は奥深く、厳しい。



景観グループだより

羽尻 嵩

新年度に入ってから池の整備作業は次の3点でした。

①ならやま西池とその周辺…池の泥上げ作業を多数の方の協力も得てやったこと。フェンス沿いなどに植樹したこと。湿地の溝整備をしたこと。水生植物を入れている甕の中の整備をしたこと。



②ドジョウ池…水深が 40～50 cmになるように深掘りをし、池の周辺を真砂土で固め、波板・竹柵・杭で土留めをしたこと。

③タナゴ池…池底に 10 cmほど蓄積した粘土交じりの泥を除去し、タガイを入れるプランターの土を新しく入れ替えたこと。

この中で、②の作業は、昨年4月から夏場を経て、ようやく1年後のこの時期に完成することが出来ました。

この池にはこれまでに 20 匹以上のドジョウが捕獲して入れてあり、4 月からの繁殖に向けて更に数を増やして、夏場にはドジョウを試食できるようにしたいと思っています。ご期待ください。



里山の

今

パトロール班だより

山本隆造

◆カシナガ君はいい子だった？

ナラ枯れについて自然の森観察路沿いでの観察結果を紹介する。

2014 年 11 月、カシナガの侵入を受けて枯死を免れたコナラ 43 本に緑のテープでマーキングした。2015 年 7 月上旬を除き枯死状態も含め 50 本に白のテープでマーキングした。



2014 年のマーキング

2015 年のマーキング

パトロール時に観察した結果は以下の通り。

1. 一昨年枯死を免れた 43 本は、現在も生存木。
2. 43 本には昨年カシナガの侵入は無かった。
3. 一昨年カシナガの侵入が無かった観察路沿いのすべてのコナラに、昨年は侵入が見られた。
4. 昨年 7 月のマーキング時点で枯死状態が 50 本中 15 本、8 月には 23 本に増え、10 月以降は 24 本とほぼ半数のコナラが枯死状態で推移。前にも紹介したが（会報誌 2015.8 月号）、森林総研の冊子での「一度カシナガの侵入を受けて枯死を免れた木は、樹体内の環境の悪化により次年度以降侵入を受けにくく、枯死する確率は低い」との記述が裏付けられたのではないかと思います。観察路沿いのごく限られたナラ枯れ観察結果から、期待を込めて推測（妄想？）が膨らむ。

1. 2016 年ならやまのナラ枯れは収束する。
ならやまのコナラにはすべて虫が付き、カシナガ君の好きな処女木は無くなったのだから。
2. カシナガ君がコナラの古木を間伐した。
ならやま全体でコナラの半数近くがナラ枯れにより枯死した。結果強間伐したのと同じ状態。
3. 明るくなった里山は世代交代が進み維持される。どんぐりが芽生え若木に成長し、大木と次世代の若木が混在する理想の里山となる。

カシナガ君に感謝状を贈呈するときが来るかも？

ならやま虫だより

菊川年明

◆ナミアゲハ(アゲハチョウ)

蛹で越冬し、3月の終わり頃から現れる。たいへんポピュラーなアゲハチョウである。大まかに言えば黄色っぽく、後翅に尾状突起を持つよく見かけるアゲハチョウである。近縁のキアゲハとよく似ているので、一瞬どちらかなと判断に迷うことがよくあるが、ナミアゲハはキアゲハより黄色味が少し薄い。

幼虫の食草はミカン類やサンショウの葉であるが、ならやまへ来る個体は食草の関係で周辺の住宅地で発生しているのではないかと考えている。

幼虫は、4齢までは黒灰色の地に白っぽい斑の入ったイモムシで、小鳥の糞に擬態していると言われている。5齢(終齢)になると鮮やかな緑色になる。

3齢以降の幼虫は胸部に臭角という1対に分かれる柔らかな角を持つ。普段は身体の中に収めているが、敵に襲われるとこれを突出して驚かす。

臭角の色はオレンジ色で、悪臭とも言える柑橘系の臭気を発する。幼虫が臭角を持つのはアゲハ類に共通の特徴である。

もう一つ。ナミアゲハの終齢幼虫は胸部に不気味な眼状紋(目玉模様)を持っている。ちょっと見にはヘビの目のようで、天敵の小鳥を脅かすためと言われている。これもアゲハ類幼虫の大方の特徴である。

ナミアゲハは春から10月までの間に2回～5回発生する。春型は小さく、翅の色彩の黄色味は濃く、斑紋の橙や青の部分も同様である。6月以降に羽化する夏型は大きく、黄色味は薄く、黒っぽい感じで、橙や青の部分も同様である。

(写真は春型の個体)



ならやま花だより

桜木晴代

◆花だよりがリニューアルします

ならやまの魅力の一つは自然です。セミやカブトムシ取りのできる

豊かな林、色とりどりの花咲く野原。シニア世代の私たちの幼い頃には当たり前に目にした風景でした。今では少し足を運ばないと見ることでしかないその自然が、ここならやまにはあります。

ならやまの四季の自然に、より親しんでいただけるよう、木に咲く花や野に咲く花などを写真などで紹介していきたいと思います。

また、会員の皆さまから「好きな野の花」「思い出の花」「気になる木」など木や花にまつわる文をお寄せいただき、皆さまと共に楽しいコーナーにしていきたいと考えています。

早春の花

オオイヌノフグリ (ゴマノハグサ科 クワガタソウ属)



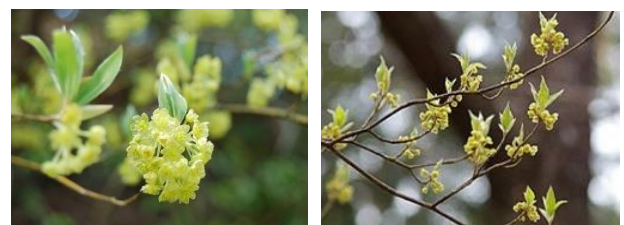
*畑の畦などで多くみられる多年草

*1～2ミリの花柄がある(タチイヌノフグリにはない)

*花の名は種子がイヌの陰囊に似ている事に由来

*別名に瑠璃唐草 天人唐草 星の瞳 など

クロモジ (クスノキ科 クロモジ属)



*観察路(2コース)で3～4月に淡黄緑色の花を見ることができる

*樹皮や材に独特の香りがあるので楊枝や細工物に使う

*葉や種子からも香油がとれる

*名は木肌の柄が文字に見えることに由来

鳥シリーズ 2月定例探鳥会 「白川ダム」 小田久美子

今回は皆さんがあまり歩いたことがないだろうと思われる、白川ダムから和邇下神社までの道を探鳥会として選んでみました。

1月号の予告に載せる予定でしたので、コース変更の猶予も考え、11月下旬、夫と下見に行きましたが、和邇下神社までの道が判らず165号線に出てしまいました。この道を団体で歩くのは危ないと思い、12月、再度下見をした結果、赤阪比古神社への旧村道を見つけ、いつもと違った面白い探鳥会コースに仕上がったのではないかと自負しております。

体調不良や他用で断念された方があり、12人の少数参加となりました。鳥たちは下見よりもっと増えている筈だと期待していたのですが、下の池ではカモの姿が少ししか見えなくて、内心焦りを感じながら曇り空の下、最近大ニュースになった白亜のシャープ工場を目指して山道を上がりました。今回の探鳥会での本命は、多分皆さんが初認と思われる「カンムリカイツブリ」です。長く潜ってとんでもない所へ出てきます。



カンムリカイツブリ (撮影者：山縣)



オオバン (撮影者：山縣)

冬、水上のオオバンは良く見ますが、陸に上がって休憩している「オオバン」たちが、私たちを警戒してエッチラ オッチラ水に戻って行く姿な

どは、他ではなかなか見られない光景です。

昼食時間、ダムの周りの柵の杭に「私を見て」とばかりに一羽の「ビンズイ」が止まりました。正面を向いて「顔はこんなんよ」「横顔も見て!」

「後姿もちゃんと見てね」と云わんばかりに、階段にいる私たちの前で暫しのパフォーマンス。アイドルのコンサート会場にいるような楽しいひと時は「もうおしまい!」とアイドルさんが飛び立たなかったら、まだまだ見続けていたい光景でした。これも皆さんの記憶に残る、思い出の一コマになったのではないのでしょうか。

カモは少なかったのですが、最後の鳥合わせでは29種とまずまずのカウント数になり、お天気も持ちましたので、ひと安心しました。

【カウントした鳥】

カイツブリ・カンムリカイツブリ・カワウ・マガモ・カルガモ・ヨシガモ・キンクロハジロ・オオバン・ケリ・キジバト・コゲラ・ハクセキレイ・セグロセキレイ・ビンズイ・ヒヨドリ・モズ・シロハラ・ツグミ・ウグイス・エナガ・ホオジロ・アオジ・カワラヒワ・イカル・スズメ・ムクドリ・ハシボソガラス・ハシブトガラス・(外来種 カワラバト)

合計 29 種

【おまけ】

御承知のように、この地は『記紀』にも記述が出る古代豪族和珥氏の領地です。白川ダム造成に伴って4・5世紀の古墳が多く発見され、公園として保存されています。あちこちに地名や伝承地が残っていて、後には私たちの良く知る春日・小野・柿本氏などに繋がる先祖でもあります。

「和邇坐赤阪比古神社」は延喜式に載り、お水取りでは「和邇大明神」の名で読み上げられる延喜式の式内大社でもあります。

という訳で、今回は主眼がバードウォッチングではありますが、通り道の「古墳公園・和邇下神社・東大寺山古墳・柿本寺跡」の簡単な案内をしました。

『古事記・日本書紀』には、和珥臣が沢山出てきます。今回の道も思い出しながら読んで頂けたら嬉しいです。

GGプロジェクト シイタケイベント報告
植えよう (クヌギ・しいたけ) !
作ろう (バウムクーヘン) !

2月27日(土)、皆様の熱意が悪天候を追いやり、危ぶまれた天候も予報では「夕刻からは雨」。

お陰でならやまは朝から暖かい日差しに恵まれ絶好のイベント日和。スタッフの方たちも予定より早く集合する人が多く、9時前には会場設営完了。

気が逸るのはお客さんも一緒か、9時丁度に受付第一号の家族連れが到着した。

今年で3年目を迎えるGGプロジェクト、年内3度のイベントが予定され、今回はその第1弾。

本来、2月と言えば極寒、余り参加が見込めないのが当たり前のこの時期、近在の佐保台小学校からは放課後子供教室の皆さんが団体で参加してくれ、「奈良市民だより」を見て応募されたお客さんも多数ご参加いただき、小学生児童31名、幼児8名、保護者並びに団体関係者33名、当会スタッフ41名の総勢113名もの盛況となった。

10時、いよいよイベント開始。当会会長とご来賓の挨拶の後、ヘルメットを着用した子供達が意気揚々と我らが里山に入山。山の中では、シイタケ菌打ちをするグループ



とクヌギの植樹をするグループとの二班に分れ作業を始めた。

シイタケが顔を出したホダギを目にした子供達は自分達のシイタケも早く大きくなれと祈る思いで菌打ちに精を出す。クヌギの植樹では名札に自分の名前を楽しそうに書く姿がとても印象的だった。それを見守る保護者の方達も子供達の生き生きとした姿に満足そう、里山は笑顔に溢れ子供達

のパラダイスに変貌した。

作業が終わってからの帰り道も敢えて回り道をして里山散策路を探索、自然の中で胸いっぱい美味しい空気を吸いこみ里山の自然を満喫した。

あつと言う間に昼食時間、家族で弁当を広げ、自然の中の食事はまた格別、更に、ならやま名物豚汁が皆さんに振る舞われ、あちらこちらで「美味しい!」「美味しい!」の声。3杯もお代わりしたと言う子まで出現。

食事休憩が終わってからも出し物は目白押し。昼からも二班に分れ、各グループで順番に、バウムクーヘン作り、薪割り、丸太切り、コースター作りを楽しんだ。

バウムクーヘン作りでは、段々ときつね色に焼けていくバウムクーヘンに興味津々、熱い熱いと言いつつ、なかなか代わろうとしない子供達。楽しんでいる気持ちがこちらにも伝わって来る。



自転車道を挟んで南側の緑陰広場では、薪割り機を使つての薪作りに挑戦する子、はじめてにするノコギリ

に、悪戦苦闘しながらも丸太切りに精を出す子、コースター作りでは、時間を掛けてサンドペーパーで磨きを掛け、出来栄えににっこりする子、焼印にもその都度歓声が上がった。

最後にはアンケートと引き換えに椎茸ホダギと鹿の折り紙のお土産。

特別賞は抽選で木彫りの「ウエルカムボーイ君」。当たったN君はしっかり抱きしめ大喜び。

スタッフの皆様のご協力を得て今回も素晴らしいイベントとなりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。
 (辻本信一)



やさしい病害虫講座 21

「ツツジの病害虫-1」

木村 裕

お庭に植えられている身近な植木類の一番手としてツツジの病害虫を紹介します。病害虫ごとに写真を載せますので、とくに興味のある方はホームページからカラー版をダウンロードしてください。

【褐斑病】 秋～春の寒い頃に葉っぱに黒褐色の斑紋が目につきます。よく見ると5ミリ位の大きさに四角い斑紋が多いようです。ヒラドツツジでの発生が多く、時には株全体の葉っぱに発生することもあります。しかし、春になって花が咲く頃には落下しますので気に留めていない方がほとんどです。しかしそのまま放置しておくと年々被害が増えてきますので、落下した被害葉は集めて処分し、発生源を減らしましょう。



【もち病】 春になると新しい葉がつぎつぎに開きますが、その中に葉が火膨れしたように厚くなって変形することがあります。赤みがかかったものや黄色みがかかったものなど、ところどころ発生する程度で全部の葉が変形することはありません。見つけしだい鉢で摘み取る程度でよいでしょう。



【マイマイガ】 5月の連休頃から発生する黒い毛虫で、背中に黄色の斑紋をもった綺麗な？虫です。葉をぼりぼりと齧ります。小さい頃は食べる量も少ないので実害はありませんが、大きくなると食べる量も半端ではなく、うっかりすると株全体が丸坊主にされることがあります。見つけしだいピンセットか割り箸で捕らえて処分してください。毛虫の毒はそれほど強くはありませんが、虫を触った手で首筋など皮膚の弱い部分に触れると、赤く腫れて痒くなりますので注意してください。



【ルリチュウレンジ】 5月の連休頃から発生するアオムシです。いつも体を丸めるようにして葉をボリボリ齧ります。何処のお庭でもよく発生します。成虫は青色のハチで、幼虫が葉を食べるのでハバチというグループのハチです。お尻には針を持っていませんので、つまんでも刺されることはありません。その代わりに平たいノコギリのような物を持っていて、ツツジの葉を薄く切り裂いてその中に卵を産みこみます。

幼虫は見つけしだい、手で捕まえましょう。





隠れ古社寺 ひとり旅 (21)

歴史文化クラブ
川井秀夫

竜象寺と御所馬場

りゅうぞうじ
「竜象寺」

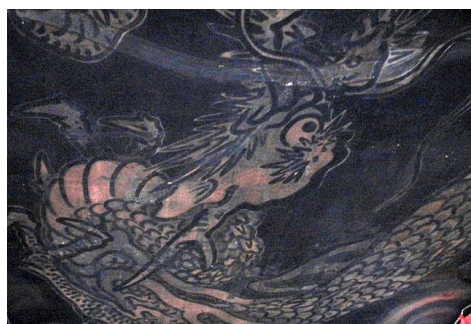
薄曇りの空ながら桜の蕾も膨らみを増し、春らしい陽気に誘われて郊外に飛び出す。今日は狩野派の絵師が描いた「水呑み画竜」の天井画がある古刹を尋ねる。



J R 帯解駅から帯解寺を左に見て右折、程なく町外れの一角に子安地藏尊の幟が立つ寺門をくぐる。聖徳太子の建立になる広大寺（今は現存しない）の奥ノ院として、聖武朝の頃、行基の開基によると言う。住職の許可を得て本堂に案内され、江戸期の狩野春甫作による十四畳に描かれた竜の天井画を拝観する。

伝説はこうだ。

「昔、村の若者が夜出かけたまま帰ってこないことが度々重なり、和尚が竜の



口が濡れているのに不審を抱き見張っていると、やはり竜は夜毎近くの広大寺池へ抜け出していた。犯人を知った和尚が目釘を打ち三枚の鱗を墨で塗りつぶすと、それから村は平穏になったと言う」。

黒く塗られた鱗は肉眼でも見えたが、釘の跡は窺えなかった。

最近良く安産・求子祈願で若者がお参りに来るが、伝承は伝承として若者の悩みを一緒に悩んでやるんだと、住職の^{ほころぶ}表情が印象的だった。

帰路、駅頭から広大寺池が一望でき、池と言うより入江のように広大に見える。昔、水が溢れ出て隣村の稗田邑の穀物が被害を受け紛争が絶えなかったとか。今、^{つがい}番の水鳥が長閑に遊泳する姿が平和を象徴するかのように残った。

「御所馬場 楽人の界限」

まだ日は高く、京終駅に途中下車。町中を通り抜けてお隣の「ならまち」に入る。通いなれた道筋を抜けると御所馬場町、ご存じ大乘院跡に出る。何と入口の紅梅が今を盛りと満開の風情、暫し足を留める

愛嬌のある馬蹄形の入り口、厚みのある土塀が続く。昔、社寺の楽人たちが音を遮断する為に作られたが明治初期、楽人たちが関東に流れ寂びれたと言う。廃仏毀釈の影響を受け名だたる寺院も姿を消したらしい。住人の方の話では断熱板の効果があり夏は涼しく、南面にあるので冬暖かいと満足気。奈良ホテルの裏口、尾花谷川に架かる飛鳥小橋まで続く白壁は奈良の文化財として保護されることを祈りたい。温故知新の満足な一日だった。



三井寺の遺墨の碑に出会う春

ふみ

古川 祐司

歴文四月例会下見。入口正面に名筆を刻した石碑が存在感を見せる。作者の大学時代の先輩の遺されたもの、感慨一入の一句。

軽々と薪割るひとや日脚伸ぶ

ひあし

古川 祐司

今や薪割機を女性の手で操作し効率的に作業が進む。戦中派にとっては驚き。春の好日、機械音がリズムミカルに響く。

一匹の黄蝶ひらひら薪を割る

青木 幸子

前句のお相手はこの方。薪割の女王。休める手元に春の女神か、蝶が舞う。よそ見をしないでお怪我の無いように……。

よかん

余寒なほ太子のみちのくねくねと

青木 幸子

歴文二月例会。寒い一日、現代に残る太子道を歩く。変化に富む道筋を「くねくね」の「オノマトペ」が象徴する。

フチー行く菜の花光る港かな

八木 順一

波止場町に陽光に映える菜の花が見え隠れ。港には哀愁があるが、今日ばかりはウキウキ気分。ご機嫌な表情が浮ぶ。

いたわ

しおん

労りにバイクと休む四温晴れ

八木 順一

四温が季語。三寒四温のあれ。バイクは私の分身、ライダーの思いが伝わる。天気は良好、さあ出発ブルン、ブル、ブル。

つま

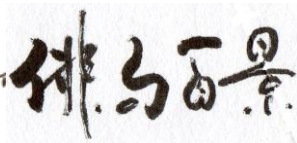
こと

抓む手の焼香の如茄子の種

小山喜与男

いよいよ農繁期。実生栽培の種まき。丸で焼香のお香をつまむ所作、言い得て妙。大事に、大事に百倍の収穫を祈る。

監修 川井秀夫



沈丁の香に頼りたる在り処

西谷 範子

沈丁花は省略して「沈丁」で通用する。雄花の集まりで実を付けることが少ない。芳香によってその存在を知る。

たんぽぽの晴れの旅立ち綿ぐるま

西谷 範子

晴れの日にタンポポは良く似合う。風まかせのミステリーな旅。「綿ぐるま」の措辞が良い。本来は「絮ぐるま」だが。

種袋ふれば命の胎動す

鈴木 末一

実生栽培の提唱者。育種は人間様、袋の中から心音が聞こえる。ファーマーたちの責任重大。「胎動す」が良い。我が子のようにかげろう

陽炎や背ナのカバンのフラダンス

鈴木 末一

子供たちの躍動がランドセルに伝わる。フラダンスの擬態表現に弾む子等の笑顔がこぼれる。流石、元校長さんの写生観

平安の祝詞巖か春の杜

坂東 久平

歴文二月例会。杵築神社の宮司さんは元三輪大社の権宮司さん。本格的なお祓い神事を受ける。今年の厄は大丈夫ですぞ。

里山の一彩二彩春笑う

坂東 久平

里山の林叢は春の目覚め。クロモジ・サンシユウなど華やいた色彩感が甦る。「山笑う」の季節がやって来た。

一握の命や種おろし

川井 秀夫

実生の種を蒔く。成りもの・葉もの・根菜とそれぞれの遺伝子の成長が楽しみ。素人百姓さん頼んまつせ……。



季節の色に染まる春のセレナーデ

谷川萬太郎

深い山間のふところに 優しく抱かれし麗らかな春よ
なぜに心を閉ざしているの 待ちわびる季節の温り恋しや
いつも控えめで健気な春 そんな貴方に早く逢いたいと



春けき匂いを探し求め 里の息吹に触れる喜び感じて
切なさに恥じらい揺れる 雪割草に明るく微笑みかける
いじらしい程に可憐な 美しい白い花が微かに揺れる



春の微風に笑顔こぼれて 菜の花で田畑が黄色に染まる頃
軒先に燕が藁を集めて暖かく 生まれ来る雛のため巣籠り始め
朝もやの中の山や森は春化粧 流るゝ川のせせらぎ澄みて



「頑張れ」

竹本雅昭



Aトイレ：Bさん、その後体調はどう？

Bトイレ：それが・・・医者に診てもらったけど、まだ診断が届かなくてね。
もし最悪の場合は引退だね。

Aトイレ：そんな寂しいこと言わんといて、もし君の代りに新型でハデな色のが来たらさ、僕なんか一変に敬遠されてガックリしそう。

Bトイレ：何を気弱なことを、元々君はロマンチストで明るい性格、すぐにも新人さんと恋に落ちてうまくやطيعけるよ。

Aトイレ：そうなれば嬉しいけど僕も大分色褪せて、おまけに人々から豪放磊落なガスのお見舞いで傷ついてるからね。

Bトイレ：なあ～に、いくら美人トイレでもベースキャンプの一番隅っこですましている訳にもいくまいよ。そのうちに藪蚊がブンブン入ってくるし、床から筍がツンツンし出したら、きっと君に頼ってくるさ。

Aトイレ：ほんにほんに、そやったらえゝねんけど。あつご免ご免、君のこと何も決まてないのに失礼しました。

Bトイレ：気にしない気にしない、それよりいつも人々がキレイに掃除してくださり気持ち良く働けました。これからも宜敷くお願いします。

人々：ありがとう、ありがとう。お陰で楽しく活動できます。

～終～



皆様方からのご応募をお待ちしています。

絵画・陶芸・写真・墨絵・手芸作品

パッチワーク・切り絵など



▲羽尻 嵩（墨彩画）「春風と妖精」



▲八木順一（水彩画）「北野天満宮の梅」



▲永井幸次（油彩画）「興福院の桜」



▲小島武雄（陶芸）「ネズミ三兄弟」



▲辻本信一「寄席文字」



▲鈴木末一

「鼻ストラップ」（左：竹根、右：桜材）



磐余について

藤田 秀憲

「磐余」は桜井市西南部、寺川左岸の香具山東山麓地域、具体的には、寺川上流の倉橋付近から、東光寺山、桜井市戒重の幸玉橋、耳成山、香具山を順に結んだ地域といわれています。

磐余の由来は日本書紀卷第三（神武天皇即位前紀）に「……夫れ磐余の地、^{そ いわれ}の旧の名は片居。亦は片立と曰ふ。我が皇師の虜を破るに速りて、^{あだ}大軍集ひてその地に満めり。因りて改めて号けて磐余とす。或の曰く、『天皇往嚴瓮の糧を嘗りたまひて、^{みいくさ}軍を出して西を征ちたまふ。是の時に、磯城の八十梟帥、^{おお}彼処に屯聚み居たり。果たして天皇と大きに戦ふ。遂に皇師の為に滅ぼさる。故、名けて磐余邑と曰ふ。』といふ。……」とあります。

歴史文化クラブの古川さんから、3月の桜井南部の歴史探訪の案内依頼を受けた時、纏向、初瀬、忍阪、明日香に比べて「磐余」に関する情報不足に気づいた私は、資料を集め準備をはじめました。

ところが、磐余に関する情報は、予想外に少なく、実地踏査にあたっても工場や病院、スーパー、住宅が立ち並び、なかなか「磐余」の実感が掴めなくて、困惑していました。

しかし、地図と発掘調査の資料を片手に、何度か現地の遺構や伝承地を尋ね歩くうちに、地形や村落や神社のひっそりとした佇まいの中に、5世紀から6世紀後半にかけて大和王権の政治的中心であった磐余のイメージを不十分ながらも感じる事が出来ました。

千田稔氏によると「古代王権の実態が資料的に不透明なため、古代学では磐余について十分な検討がなされておらず、とりわけ磐余の場合は考古学的にも未調査の部分が多い。」とのことでした。

日本書紀に、孔舎衛坂の戦いで長髓彦に大敗した神武が、神々の助けを受けて、熊野から吉野、菟田、忍坂を経て磯城に至り、ついに鳥見の地で再び長髓彦と相まみえ、苦戦を強いられる中、金鵄が現れ靈光で戦意を失わせた結果、饒速日命が

長髓彦を殺して帰順し、「磐余」の地で磯城の勢力を打ち破り一帯の覇権を獲得し、畝傍の橿原宮で即位（始馭天下之天皇）したとあります。

この出来事が、神武天皇を「カムヤマトイワレビコ（神倭伊波毘古（記）、神日本磐余彦（紀）」と称する理由ではないかといわれています。

磐余の地は天皇家との関係も深く、五世紀から六世紀後半にかけて、①履中の磐余稚櫻宮、②清寧の磐余甕栗宮、③継体の磐余玉穗宮、④敏達^⑤の訳語田幸玉宮、⑥用明の磐余池辺双槻宮等歴代天皇の宮が営まれ、大和王権の政治的中心であり、当時の交通の要所でした。

和田萃氏は「推古朝で横大路が整備される以前から、道幅は狭いが東西の道路（プレ横大路）があり、それに沿って初瀬谷西端の⑦雄略の泊瀬朝倉宮、⑧欽明の磯城嶋金刺宮、西方には⑨安閑の勾金橋宮（橿原市金橋）が所在、大和政権の屯倉も設置されていた。河内湖周辺の津や大阪湾岸の住吉津や難波津に直結し、五世紀後半には大伴、物部、蘇我、阿部など有力豪族が河内や摂津に拠点を持つに至った。今後、日本古代の国家形成を考える場合、磐余に諸宮が生まれた六世紀の解明が必要である。」といっています。

記紀の編纂者たちにとって、「磐余」は特別な地域との認識があったのではないかと思います。

「神話に続く神武天皇の登場は『厳然たる歴史』であり、奈良時代初頭において記紀は『厳然とした歴史書』だった。」という考えに共感を覚えます。一方では「古代史を学ぶとき、伝承の中に史実を探そうとすることは本来してはならないこと」ともいわれています。

しかし、研究者でない私たち歴史愛好家は、記紀をはじめとする学術研究や発掘調査をもとに歴史学者が発表した意見や定説を基本にすることは勿論ですが、現地の風土、伝承、文化、生活、遺構や遺跡等から想像力を逞しくして、酒の肴に口角泡を飛ばして、歴史を論じ合うことは許されているのではないのでしょうか。

そして、学術研究や発掘調査が進む中で新たな知見が発表されたとき、あれこれ議論しながら、歴史の空白部分を埋めたり、個々のイメージを書き換えることは歴史愛好家の楽しみでもあります。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず
活動予定日

4月	7 (木) 28 (木)	14 (木)	21 (木)
5月	5 (木) 26 (木)	12 (木)	19 (木)

◆場所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 20 haの里山林地（県有林）

◆集合：現地ベースキャンプ地・午前9時

◆終了予定：午後3時

◆アクセス

① JR平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分

② 近鉄奈良駅：バス 1 3 番乗り場 115 系統
8：28 発、高の原行き（平日）

③ 近鉄高の原駅：バス 1 番乗り場 115 系統
8：36 発 JR 奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩 7 分

◆携行品など：弁当、飲み物、
軍手（作業用具は現地で用意）

◆環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参下さい。

◆連絡先：八木 順一



里山 Gr

4/7 協働作業の日

薪割り、薪玉玉切り・集積、薪棚製作

アースデー準備（工作物作り）

植樹及び萌芽状況のフォロー

（芽吹きの確認、標識取り付け、番号管理）

14

薪割り、薪玉玉切り・集積、薪棚製作

アースデー準備（工作物作り）

植樹及び萌芽状況のフォロー

（芽吹きの確認、標識取り付け、番号管理）

21

薪割り、薪玉玉切り・集積、薪棚製作

アースデー準備（最終点検）

植樹及び萌芽状況のフォロー

（芽吹きの確認、標識取り付け、番号管理）

28

薪割り、薪玉玉切り・集積、薪棚製作

林野庁関係里山整備

エコファーム Gr

4/7 協働作業の日

茄子 唐辛子 トマト畑の畝作り



14

里芋植え付け、夏野菜畑畝作り

サツマイモ畑畝作り 落花生播種

21

カボチャ畑畝作り・枝豆畑畝作り

28

茄子 唐辛子 トマト カボチャ等植え付け

景観 Gr

4/7 協働作業の日

たけのこ収穫作業

池の整備／シェードガーデン整備、施肥

観察路の通路整備

14

第五、佐保自然の森耕運・ヒマワリ播種

西池生物調査／花生姜植え替え

安全パトロール

21

BC 周辺草刈整備・彩の森（畑）ヒマワリ播種

池の整備／畑準備、夏花種まき、草取り

観察路の丸太階段補修

28

彩の森草刈整備

西池生物調査／ドイツアヤメ草取り

観察路の案内看板の製作





行事案内 part 1

馬見丘陵公園 自然観察会 (自・教チーム) 木の芽時雨で流るる観察会

3月15日に予定していた馬見丘陵公園の観察会は雨で中止でした。満開の河津桜や紅梅を楽しんで頂こうと予定していましたので、残念でした。

園芸店で観葉植物として販売されている「プミラ」が、中央南出口門のところで大きく育ち径5cmほどの実を沢山付けて頑張っています。クワ科イチジク属で「オオイタビ」で実を見るのは珍しいと思います。園内にはイヌビワ(イチジク属)の実も残っていて「無花果」と書く繁殖形態を、倉田リーダーに解説していただく予定でした。

植物にとって「冬」は、生きるためには厳しい環境にあります。「樹木の冬芽」を題材に、さまざまな実態を探る予定でした。「芽」を護るのは、寒さ対策だけでなく、むしろ乾燥を防ぐことの方に力点がある事や、

「頂芽^{ちようが}」の保護のため、うろこ状に(=鱗芽)帽子を付ける、毛を生やす、粘液を付ける等々の実物を手に取っての観察を考えていました。

春の日を浴びて、いち早く花を咲かせ、葉を広げる逞しい力は、芽の植物ホルモンと地下の根の植物ホルモンが呼応して躍動するようです。地上部と根は、お互い対極の部分ですがいつも会話しながら成長のバランスを取っているそうです。植樹のとき根が傷みます。地上部の枝を少なくする(枝を飛ばしたりする)事は理屈に合った作業なのですね。

草本・樹木それぞれの、その季節ごとの不思議をこれからも探りましょう、楽しい事の一つです。

なお、オオイタビとイヌビワコバチの不思議な共生関係を是非調べてください。小林正明著「花から種へP153」の図解説は面白いです。

(写真は毛に覆われたモクレンの芽)

(阿部和生)

自然教室チーム 4月の自然観察会 ナラノヤエザクラ満喫

奈良公園では氷室神社のシダレザクラを皮切りにソメイヨシノ・ヤマザクラ→オオシマザクラ→ナラノココノエザクラ→サトザクラ→カスミザクラ→ナラノヤエザクラの順番で5月初め頃まではほぼ切れ目なく可憐かつ優雅な桜の花が楽しめます。

この機会を捉え、自然教室チームでは以下の要領で奈良公園の桜を巡る自然観察会を催します。

今回の目玉は雪景色の様に降り積もった桜の花びらを食む鹿の幻想的な姿です。このショットを目当てに遠くは九州、四国方面からもカメラマンが訪れるとか、是非皆様もご参加ください。

1. 日時：4月12日(火) 10:00~14:00の予定
2. 集合：近鉄奈良駅、行基像前
3. 持ち物：弁当、飲み物、カメラ、有ればルーペ
4. 観察ルート；春日野園地周辺
5. 追加情報：この時期、鹿の菊座(角を切って残った部分)が拾えるかも、、

(担当：辻本)

アースデー 2016 in なら

当会では春恒例のならコープ主催「アースデー 2016 in なら」イベントに今年も参加致します。

自然との共生や生き方を学び考える機会と捉え、持続可能な社会を目指す心豊かな人々が増えるアースデーを作り上げたいとのイベント企画趣旨に賛同し、当会では2013年より参加、今年で4回目を迎えます。



1. 日時：4月24日(日) 10~15時
2. 場所：国営飛鳥歴史公園、石舞台芝生公園
3. 出品：熊のブローチ、ブンブンゴマ 各100セット

広い芝生広場では食べ物屋さんをはじめ、体験コーナー、フリーマーケット等、50軒くらいのお店が並びたくさんの家族連れ友達同士が訪れます。皆さんも奮ってご参加ください。



行事案内 part 2

歴文クラブ 4月例会 (ご案内)

近江路 湖西に行く

近江路は琵琶湖を東西南北に囲み、800余年に及ぶ首府、平安京の存在により、上代より政治的・軍事的・文化的的要衝となり、人物の往還、日本史に残る戦乱、物流の十字路となり、古代、いち早く渡来人の流入地域として、正に歴史の宝庫と言って過言ではないと考えます。今回、湖西のみちを辿りその一端に触れたいと思います。多くの方のご参加を期待致しております。

「実施要領」

- 1 日時 4月26日 (火)
- 2 集合 近鉄 大和西大寺駅 南出口
8:15分厳守 チャーターバス利用
- 3 行程

三井寺～大津歴史博物館～新羅善神堂～小野神社～小野篁神社～小野道風神社ほか



- 4 参加費 3500円 (バス代金)
- 5 昼食 坂本「鶴喜そば」
そば以外のメニュー有り
- 6 申し込み 古川祐司 宛
TEL・メール 可
- 7 世話人 杉本 登・古川祐司・川井秀夫



5月ならやま活動&行事予告

*ならやま活動

5月5日 協働作業の日

*第15回通常総会&10年会員表彰

5月21日 (土) はぐくみセンター

*月例研修会 (自然教室共催)

5月11日 (水) 奈良公園

飛火野・春日大社周辺

*歴文研修会 (特別企画)

5月23日～24日一泊研修

古代丹波王国と日本海文化探訪

*会報誌印刷・発送 5月30日



奈良学ワイズ

【問1】吉野町の桜本坊境内にある「夢見の桜」は枝垂れ桜です。この桜の故事に所縁のある人物をお答えください。



【問2】平安時代末期に大和守に任命されたが、興福寺の圧力を受け四国へ配流されたという武将をお答えください。

【問3】かつて聖武陵と光明陵への奉仕を司っていたと言われている寺院名を山号も付してお答えください。

【締切】4月3日 (日)

【応募方法】(鈴木)

【景品】自然木作品etc

【2月号答】(1) 壺阪山 (2) 703年、大宝3年

平成28年・3月度幹事会報告

日時: 平成28年3月1日(火)17時～19時20分

場所: 奈良市佐保川地域ふれあい会館 1階会議室

出席者: 顧問・幹事22名

議事:

I.会長挨拶(下記報告並びに説明があった。)

①次期体制に関し:退任、重任、新任予定者報告。

②平成28年度10年表彰対象予定者報告。

II.会計・事務局報告

1.事務局報告:①会員数151名(増減無し)

②「会員継続と会費納入お願い」を会報に同封。

次回活動日会費徴収開始。

③通常総会5/21(土)ボランティアインフォメーションセンターに会場確保。総会議案書作成着手、4月度幹事会にて審議、5月度幹事会にて決定予定。

④平成27年度収支報告見直し並びに平成28年度予算案中間報告。各Gには総会まで現状要求案通りにて予算執行願う。

2.会計報告:会計諸表に基づき2月度収支報告。

III.活動・行事関係、課題・懸案・確認事項

1.3ヶ月スケジュール、当月スケジュール確認

2.ならやまプロジェクト関係:ならやま委員長、各グループリーダーより報告並びに計画の説明

3.活動報告と予告:

月例研修会、自然教室、歴文クラブより報告並びに予告、担当幹事よりGGプロジェクト実施報告。

4.新入会員歓迎会:諸般の事情を鑑み酒提供取り止め、新たにわんこ蕎麦の提供を承認。

5.ならやま里山整備:進捗状況説明

IV.広報関係

ネイチャーなら4月号編集内容確認

V.企画会議

企画会議最終案として「理念」案並びに「会則」改定案提示。問題指摘を受け再考する事となった。

「記念事業推進企画案」を提示した結果、月末までに①各Gの取り組み案の報告②キャッチフレーズ及びロゴマークの募集を行う事を決定した。

次回幹事会は、4月5日(火)午後5時、

中部公民館にて開催予定。

以上

◇ 申し合わせ ◇

※ならやまでのプロジェクト活動やイベントは、前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60%以上の場合は、中止になります。

※通常活動日【木曜日】が、雨天等により中止になった場合、翌日【金曜日】を臨時活動日とします。



◆ 桜

お水取りが終わり、「ならやま」にも春の訪れが感じられます。桜の開花が例年より早く、福岡や名古屋では開花が発表されました。

このところ年々開花が早まっているように感じます。4月7日頃が小学校の入学式で、満開の桜の下で、記念写真を撮るのが定番でしたが、多分今年も桜は散っているのではと心配しています。

「ならやま」にも、4月には数名の新入生が見えると聞いています。新人のはつらつとした活躍を期待したいと切に願っています。

当会も150名を超える団体となり、個性豊かな会員がそれぞれの目的で活動しています。ボランティアだから自由にやって良いのですが、やはり規律を守り、怪我の無いう、「明るく、楽しく、無理をせず」で、やっていただきたいと思います。

(行々子)

会報誌[ネイチャーなら]・第171号

発行:奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲

<http://www.naranature.com>



編集チーム代表:坂東久平